あなたの街のドクターがアドバイス

その手のしびれ、大丈夫ですか?

しびれの原因はさまざまです。症状の変化に注意すること

ピリピリ、ビリビリとしびれの表現はいろいろありますが、手がしびれるということは多くの人がよく経験します。

手のしびれの原因は、脳や脊髄、末梢神経の障害の他にも、血液の循環不全、糖尿病や甲状腺機能低下症などの内科疾患、栄養失調（ビタミンB1不足など）などさまざまです。そしてしびれの症状や強さ、時間とともにどのように変化するかが、診断には有用です。

脳梗塞や脳出血によるしびれは、通常、突然出現し改善することはなく、口のもつれや運動麻痺などの症状を伴うことが多くあります。もし、しびれが改善してもまた繰り返す場合は、脳梗塞の前兆と言われている一過性脳虚血発作という病気かもしれません。迷わず病院を受診してください。

頸椎（けいつい）椎間板ヘルニアは突然しびれて持続します。手だけではなく、肩から指先まで走る電撃痛を伴うことが多いのです。頸椎の骨が変形し靭帯（じんたい）が肥厚する頸椎症によるしびれは、ゆっくり進行し、経過が長いと筋肉が痩せて筋力も低下します。

けがなどによって末梢神経を障害した場合、その時からしびれや感覚がないなどの症状が出現し、持続します。靭帯のような組織の圧迫による末梢神経障害は徐々にしびれが悪化してくることがほとんどです。例えば、正中神経障害によるしびれは、手のビリビリした痛みで目覚め、手を振るとしびれが軽減することを特徴とします。そして、内科疾患やビタミンB1不足などのしびれは、徐々に出現し持続します。

さらに高齢者の場合は、頸椎の病変と末梢神経障害、さらに脳の病変も合併することがしばしばあります。いつものしびれだからといって放置しておくと重篤な後遺症を残してしまうことがあり注意が必要です。しびれのわずかな違いを見逃さないこと、そして周囲の人が気づいてあげることが早期診断、治療へつながります。

お話してくださった先生

札幌宮の沢脳神経外科病院
脳神経外科
村上 友宏 先生

日本脳神経外科学会専門医。医学博士。1998年札幌医科大学卒業。脳神経外科入局。複数の急性期病院勤務を経て、2008年から札幌医科大学脳神経外科学講座助教。2013年4月より現職。専門は脊椎脊髄、末梢神経疾患。趣味はソフトテニス。